

始良っ子見守り隊募集！

始良っ子見守り隊って何？

学校内外で子供たちの安全を確保するために活動して下さる方々です。

一人でも登録できるの？

一人でも登録できます。もちろん団体単位でも大丈夫です。

興味のある方や分からないことがある方など、いつでも始良市教育委員会保健体育課にご連絡ください。

電話：66-3758

担当：須藤 伊福

協力するにはどうすればいいの？

始良市教育委員会保健体育課にご連絡いただければ始良っ子見守り隊として登録します。登録された方には、始良っ子見守り隊の帽子をお渡しします。



始良市の子供たちのため、ぜひ、ご協力ください。

どんな活動があるの？

定点見守り(立哨指導)

交通量の多い交差点や、見通しの悪い道、人通りの少ない道などに立って子供が安全に通行できているか見守ります。



登下校への付き添い

特定の区間あるいは学校まで集団登下校等の際に、子供に付き添って見守ります。



ながら見守り

登下校時間帯に合わせて、外に出て花の水やりや犬の散歩など時間と場所を工夫して何かをしながら登下校中の子供たちを見守ります。



1 はじめに

安全・安心な登下校の実現に向けて

- 全国で子供が登下校中に犯罪被害に遭うケースがみられます。被害の多くは、子供だけで行動しているときや、人の目が少ない状況で発生しています。
- こうした犯罪被害を減らすためには、地域全体で、登下校中の子供たちの見守り活動をするのが欠かせません。
- 一方で、見守り活動を含めた防犯ボランティア活動者数は近年減少しており、今、みなさんの協力が求められています。



地域ぐるみの見守り活動と効果

- 登下校時の見守り活動は、学校を中心に、保護者やPTA、地域住民、行政、警察、民間企業、地域団体等が一致団結して連携・協働し、地域全体で取り組むことが重要です。
- 一人一人ができる範囲で、子供たちや地域へ目を向け、見守り活動を実施することで、犯罪や事故が起きにくい環境をつくることができます。
- なお、見守り活動は無理なく行いましょう。小さな取組の積み重ねによって、地域全体で子供たちの安全を守る環境が生まれるとともに、地域コミュニティの活性化も期待できます。

2 活動してみよう

見守り活動の心構え

- 地域住民による見守り活動は「地域活動」の一環です。警察等が実施するような「警戒・パトロール(警ら)」ではありません。
- 一人一人が無理なく、できる範囲で取り組むことが重要です。

見守り活動の始め方

- 「子供見守り隊」や「スクールガード」、「安全サポーター」等、見守り活動団体の呼び方は様々です。既に活動している団体について知りたい場合は、お住まいの市町村や近くの学校に問い合わせてみてください。

見守り活動者の方々へ 活動を始める前に確認しましょう

■ 以下の行為はやめましょう。

- × 活動の強制
- × 警察が実施するような取り締まりや警棒等の武器の所持
- × 子供との過度なコミュニケーション(過度な接触、あめ・ガム等を含む飲食物の提供、自家用車や私有地への招待、連絡先の交換等)
- × 子供を叱る、しつけようとする行為(子供の安全を守るための指導は可)

■ 万が一に備えてボランティア保険や防犯協会等の団体保険に加入しましょう。保険料を補助する市町村もあるので、問い合わせてみましょう。

4 持続可能な活動に向けて

無理をしない、無理をさせない活動を心がけよう

▶活動は、日頃の行動範囲を中心にしよう

- 見守り活動場所の分担は、活動者の自宅や通勤先等を基準に考えましょう。
- 活動場所までの移動手段を踏まえて、活動範囲を無理なく決めましょう。

▶ライフスタイルに合った活動をしよう

- 時間帯や頻度、方法はライフスタイルに合わせて無理なく活動しましょう。
- 各自が少しずつ、できる範囲で子供や地域に目を向けることが大切です。

▶楽しく活動しよう

- 一人一人が協力し合い、楽しく活動しましょう。
- 活動者同士だけでなく、保護者、学校、市町村、警察、地域住民等が思いやりながら、互いに強制することなく楽しみながら活動することが大切です。

コミュニケーションを大切にしよう

▶挨拶をしよう

- まずは挨拶を大切にしましょう。
- また、「お疲れ様」「ありがとう」などの言葉をかけ合い、互いに気持ちよく活動しましょう。



▶日頃から顔を合わせ、交流を深めよう

- 活動者同士が顔を合わせる機会をつくりましょう。
- 意見交換会や連絡会、ワークショップ、研修会等は活動者同士の理解を深め、信頼関係を醸成するよい機会です。
- 見守り活動者同士の絆は、地域コミュニティの絆にもつながります。

見守り活動者の方々へ 日頃からコミュニケーションを取り、顔の見える関係づくりをしましょう

■ 適切な情報共有に向け、日頃から他の活動者、市町村・学校担当者とのコミュニケーションを図り、いざというときのために、顔の見える関係づくりをしましょう。こうした関係づくりは、地域コミュニティの活性化にもつながります。